美術科教育学会通信 NO.39

2000年12月10日発行

学会事務局　〒640-8510　和歌山市栄谷930　　和歌山大学教育学部　美術教育学研究室
TEL : 0734-57-7359,7358（長谷川・永守研直通）FAX : 0734-57-7509,7508（同）
通信担当　〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学　TEL&FAX : 0742-27-9223（宇田研直通）

大至急、年会費「自動引き落し」申し込みを！！

－年会費の納入方法が変わります。今すぐ学会事務センターに「依頼書」を送付して下さい。－

会計担当　岩崎由紀夫

美術科教育学会では、従来年会費は、金融機関窓口で振り込み送金していただいてまいりましたが、事務の効率化を図るため、新たに金融機関の預金口座より自動引き落しで、納入いただくことが、平成11年度の学会総会でご承認いただきました。

つきましては今後、**原則として年会費の納入は自動引落し**となります。（今回の手続きをしていただければ、従来の振替用紙に記入して送金をする手間が省けます。）ただし、特別の事情により自動引落しをご利用になれない場合には、従来の振替用紙にてご送金下さい。

自動引落しにつきましては、10月下旬頃「（財）日本学会事務センター会員業務年会費自動引き落し係」より送付されました**「預金口座振替依頼書」に必要事項をご記入の上、早急にご返送**いただきますようにお願い申し上げます。

預金口座からの年会費の引き落しは、年1回となります。引き落し時期は、原則として会計年度の当初の月（平成13年度は、4月12日）を予定しています。

「預金口座振替依頼書」による年会費の納入の申し込みは随時受付けされますが、引き落し時期との関係で平成13年4月よりの引き落しには、**平成12年（2000）12月末日が申し込み締め切り期限**となります。未だお済でない方、お急ぎ下さい。

引落しに際しましては、事前に「年会費口座振替のお知らせ」が事務センターより送付されますので、ご確認下さい。引き落し後は、預金通帳摘要欄には、学会名ではなく、「DF（ガッカイヒ）と記帳されます。また、一部の金融機関では「DF」「ダイヤモンドファクター」（収納代行会社の名前）と記帳されることもありますのでご注意下さい。

以上、ご多用とは存じますが、学会事務の効率化を図るために、会員の皆さまの早急のご協力をお願いいたします。

■振替依頼書記入上の注意（要点）

1．3枚複写式の依頼書に、氏名、連絡先、会員番号、預金口座の必要事項の記入、銀行届け出印の捺印（1枚につき3ヶ所、3枚とも）後、申込者控を除いた2枚を以下まで送付して下さい。
2．〒113-8622　東京都文京区本駒込5-16-9　学会センターC21
財団法人 日本学会事務センター
会員業務　年会費自動引落係
電話03－5814－5810

学会誌第22号編集について

学会誌編集委員長　柴田和豊

来年3月刊行予定の学会誌『22号』の編集作業は、10月上旬に確定稿を入稿して頂き、中程にさしかかっています。投稿数は29本で、うち22本が掲載されます。（本来は、23本なのですが、1本が都合で23号にまわります。）29本は、前回の31本を下回って過去最少です。締め切りを8月末にして投稿者への便宜を図ったことを考えますと意外です。減少傾向は何を意味するのでしょうか。

ところで、来年3月一杯で現編集委員会は任期を終えます。そこで、学会誌編集に対して気になっていることをこの機会に少し記しておきます。

○次期の編集体制として、編集委員会のほかに刊行作業委員会を置くべきと考えます。現在の編集委員長の実態は殆ど事務員で、肝腎の「学会誌の在り方をめぐる検討」に取り組む余裕がないのが実情です。それに編集のノウハウの共有という点で、若い会員に刊行実務に是非とも関わってほしいのです。

○査読体制は、かなりよくなってきたと思っています。続く課題は、投稿者が査読者の指摘を受けてリライトするための十分な期間を保証するシステムの実現です。解決策として、リライトを求められた論文の掲載号を9月頃に出す（学会誌の2分冊化）という方法が浮かびますが、そのためにも刊行作業委員会が必要となります。2分冊化はすでに承認されていながら、実務量の関係で実現できかねているのです。

○公的な刊行助成金の獲得が望めなくなっています。そのために安価な刊行方法を考えていく必要に迫られています。この点でもIT面に長じた若手会員の積極的な関与が待たれます。学会の活性化は、多くの当事者感覚を持った会員の出現によってのみ可能となるでしょう。学会誌編集は、その試金石になると思っています。

平成12年度文部省科学研究費補助金採択課題本学会関連一覧

事務局　宇田秀士

本年度の学会員による科研採択課題（研究代表者、テーマ、配分金額）をお知らせいたします。事務局に寄せられた情報並びに以下の文献を参考にして作成しました。

科学研究費研究会編『平成12年度科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧　(上)、(下)』ぎょうせい、2000年10月

＜研究成果公開促進費　学術図書＞

○橋本泰幸：ジャポニズムと日米の美術教育、建帛社、250万円

○中川織江：粘土造形の心理学的・行動学的研究、風間書房、110万円

＜基盤研究(B)＞

＊新規分

○永守基樹：総合的感性教育の可能性の探求およびイメージ創造を支援する教育システムの開発、580万円

＜基盤研究(C)＞

＊新規分

○蝦名敦子：基礎造形教育におけるデッサンの目的と意義―絵画作品の幾何学的実証を通して―、130万円

○降旗孝：初等・中等教育における一貫カリキュラムの構築―造形美術教科教育の再構築―、50万円

○新井哲夫：図画工作・美術科教育における

鑑賞授業モデル及びプログラムの開発に関する研究―造形活動における子どもの発達的特性をふまえた鑑賞教育の方法論的探求―、140万円

○宮坂元裕：小学校教科教育における学習課題の成立過程とその評価に関する実践的研究、210万円

○阿部靖子：「まちづくり」をテーマとした総合的な学習に関する実践的研究、140万円

○松本健義：できごとの協同形成過程における幼児の造形的行為の認知的・社会的役割に関する研究、180万円

○栗田真司：10歳前後に発現する描画表現意欲の低下傾向に関する基礎的研究、140万円

○藤江充：生涯学習社会において学校と美術館の連携を促進するための研究、120万円

＊継続分

○立原慶一：美術教育における「題材論的方法」の研究―「題材と表現主題の関係項」をめぐって―、80万円

○渋谷寿：キャンプクラフトにおける子供の創造能力育成の為のプログラムおよび遊び媒体の開発、100万円

＜奨励研究(A)＞

＊新規分

○宇田秀士：美術教育実践における教師の「規範」の変遷と展望、140万円

＊継続分

○佐々木宰：総合的な学習の教材化のためのデザイン・工芸教育に関する研究、80万円

○石崎和宏：美的感受性の発達における思春期の類型的特性と美術鑑賞学習の適時性に関する研究、80万円

＜奨励研究(B)＞

＊新規分

○山田芳明：子どもの楽しさと造形活動の関連をはかった実践の開発とカリキュラムづくり、24万円

以上が本学会会員の採択課題ですが、参考までに関連のある分野・課題名を上げておきます。昨年度まで本学会が採択されていた＜研究成果公開促進費　学会誌部門＞では、採択が厳しく他学会の多くも落選の憂き目にあっています。その状況の中、日本家庭科教育学会誌年（4回発行）が、80万円の配分を受けています。採択が厳しい状況は変わりませんが、日本家庭科教育学会誌やその他の採択学会誌を参考に申請を続けていく予定です。

また、同じ＜研究成果公開促進費　データベース部門＞では、「土屋俊代表：日本近代デザイン画像データベース、2690万円」が、その対象分野として哲学、デザイン史、建築史、美術史、美学とともに、美術教育史を上げています。一度中身を見て本学会研究にとって有益な内容かどうか、確認する必要があるのかも知れません。

さらに、配分上限額が大きい申請分野では、「＜基盤研究(A)＞佐々木健一代表：日本の美学（明治・大正期）1220万円」、「＜基盤研究(B)＞土屋昌義代表：100年間の小学校図画作品の軌跡と表現分析、470万円」が採択されていました。人文・芸術系の研究課題でも課題設定の仕方、研究方法、それまでの実績などを準備するならば、採択が可能になるようです。研究実績をお持ちの方を中心にしたティームによるプロジェクト申請の道を探っていくことも今後は必要となることでしょう。

今号も含め学会通信に掲載した過去3年間の動向も次年度秋の申請の参考にしていただければと思いますが、小・中・高などの教育現場の先生方が応募できる＜奨励研究(B)＞は、年明け1月締切です。詳しくは、以下のホームページをご覧下さい。多くの方が申請・採択されることを願っております。

<http://www.jsps.ab.psiweb.com/j-kaken.html>

今回一覧に漏れていた研究がありましたら、事務局（宇田）までお知らせ下さい。次号に掲載いたします。その他、他の財団や基金の援助を受けた研究、ユニークなプロジェクト・企画を行っている会員からの紹介もお待ちしております。

第23回美術科教育学会
筑波大会案内

筑波大学芸術学系
岡崎昭夫・直江俊雄

来年の３月に開催予定の大会の第１次案内を同封致しましたのでご覧下さい。大会日程は前号でお知らせしたとおりです(念のため再掲載します)。

11月末現在での研究発表の登録は28件です。なお40件ほど受付可能ですので、2001年1月9日（火）までにホームページ<http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~artedu/>上の「研究発表一覧表」を確認の上、電子メールまたは郵送にてご登録をお願い致します(申し込み方法に関する詳細は、5頁の「第23回美術科教育学会筑波大会研究発表の申し込みについて」を参照のこと)。

会場へのアクセス及びご宿泊につきましては案内の関連サイトをご覧の上、ご確認及びご予約をお願い申し上げます。

参加申し込みにつきましては参加費等の入金をもって申し込みとさせていただきますので、同封の郵便振替用紙によりお早めにお願い致します。特別行事の概要につきましては案内をご覧下さい。

なお最終案内は来年の２月末に当方より直接会員の皆様方に送付させて頂きます。

１．開催日時
2001年3月26日（月）・27日（火）

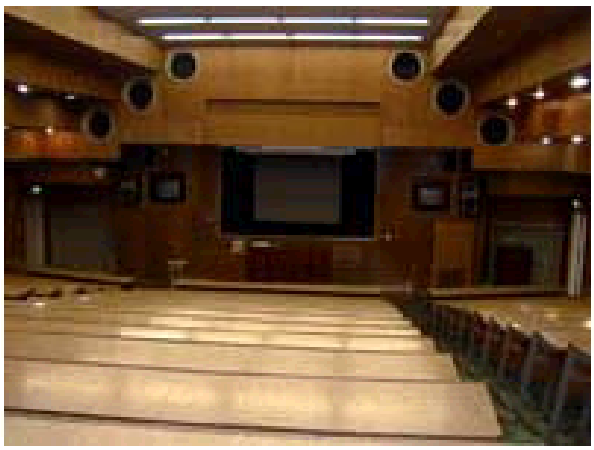
２．会場
筑波大学体育芸術専門学群棟

３．日程

大会第一日　26日
- 11時30分　受付開始
- 12時15～45分　開会行事
- 13時～16時25分
  研究発表Ａ（30分プログラム）最大48件
- 16時45分～17時45分
  特別行事（バウハウス再現授業）
- 18時～20時
  懇親会（大学会館）

大会第二日　27日
- ９時～11時15分
  研究発表B(45分プログラム）最大21件
- 12時30分～２時25分
  研究発表C(60分プログラム）最大６件
- 14時45分～15時45分
  特別行事２(感性評価プログラムの実演)
- 16時～17時　学会総会，閉会行事

会場となる筑波大学体芸中央棟（正面）
左側は芸術専門学群棟



研究発表会場（52B11）

第23回美術科教育学会 筑波大会研究発表の申し込みについて

本大会では、A…25分、B…40分、C…55分の時間枠から、発表者が選択する方法を採ることになりました。「発表時間・会場一覧表」から発表者が希望の箇所を申請し、先着順に枠を埋めていきます。以下の手順に従って申し込みを進めてください。

1．発表資格の確認…本学会会員であること。入会方法等については、学会ホームページを参照。

2．発表時間・会場枠の選択…大会ホームページ<http:www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~artedu/>に掲載する、「研究発表一覧表」をチェックし、まだ埋まっていない時間枠の中から希望の箇所を選択してください。

3．申し込み…電子メールまたは郵送にて受け付けます。ファクスでのお申し込みはご遠慮ください。

電子メールの場合…メールのタイトルを「学会発表」とし、本文に以下の内容を明記し、大会事務局メール
<naoe@geijutsu.tsukuba.ac.jp>
まで送信してください。

・発表題目
・発表者氏名・所属
・発表者住所・電話／Fax番号
・希望時間・会場枠…第3希望までお書きください。
【記入例】第1希望、C(55分)、3月27日(火)午後1:00、研究発表室1(52B11)／第2希望、C(55分)、3月27日(火)午後2:00、研究発表室1(52B11)／第3希望、C(55分)、3月27日(火)午後1:00、研究発表室2(53A02)
・使用希望機器…その会場枠に記されている範囲で選択してください。

郵送の場合…先にお送りした「発表時間・会場一覧表（兼・郵送申込書）」の希望箇所に第1希望から第3希望までを①～③の数字で記入し、その下欄に必要事項を記入して、大会事務局まで郵送してください。

4．発表時間・会場の決定…大会事務局では、着信した順に希望枠を埋め、随時、大会ホームページに公開します。

時間差により第3希望まで全て埋まってしまった場合の配置は、事務局に一任することをあらかじめご承諾ください。また、申し込み後1週間を経過しても一覧表に登録されない場合、通信の不着などが考えられますので、大会事務局にお問い合わせください。また、最終的に事務局で全体の日程を調整し、枠を変更することがあります。

5．発表概要集原稿の送信…電子メール、またはテキストデータを入れたフロッピーディスクを郵送、のいずれかの方法にて、下記の内容を大会事務局までお送りください。

・発表題目、発表者氏名・所属
・概要…和文で400字～800字程度。
・電子メール、テキストファイル等のタイトルは、「概要集」としてください。

6．締め切り…発表申し込み、発表概要集原稿とも、200年1月9日（火）必着。

締め切りを過ぎても発表概要集原稿が到着しない分につきましては、概要を空欄のまま印刷せざるを得ないことがありますので、あらかじめご了承ください。

情報源・連絡先

○**美術科教育学会ホームページ**(入会案内等)
<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/aae/Home. html>

○**大会事務局**
＊ホームページ(研究発表一覧チェック)<http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~ artedu/>
＊電子メール(発表申し込み)
<naoe@geijutsu.tsukuba.ac.jp>
＊郵送先(発表申し込み)　〒305-8574
つくば市天王令1-1-1　筑波大学芸術学系内　美術科教育学会大会事務局
＊TEL&FAX(直江研究室)　0298-53-2821
(ファックスでの発表申し込みは、ご遠慮ください。)

研究部会だより

国際研究交流部会

岡崎昭夫(筑波大学芸術学系)

このたび国際研究交流部会の世話人を，仲瀬律久理事より引き継がせていただくことになりました。会員の皆様のご協力をいただきまして，部会交流の進展に寄与して参りたいと存じますので宜しくお願い申し上げます。今後の研究部会の会員の皆様にはこちらから連絡や案内を送付させていただきます。

研究部会の活動状況につきましては，兵庫教育大での大会以来，さしたることもできず現在に至っていますが，12月中には「国際研究交流支援資料」用紙を会員の方々に配布する予定でいます，そこにこれまでの国際交流の実績やご関心の領域などに関する情報をご記入いただきまして，今後の協力関係の構築や情報交換などのご活用いただこうとする資料を作成いたしますので宜しくお願い申し上げます。なお，国際交流部会へのご参加あるいはご質問などがありましたら，Eメールなどでお知らせ下さい。

国際学会につきましてこれまでのところ以下の２件が予定されています。アジア太平洋地区美術教育会議が2000年12月28日から30日まで香港の香港教育学院において開催されます。詳しくはこの大会のホームページ<(http:www.iedied.edu.hk/ca/conf2000>をご覧下さい。また，第31回国際美術教育学会大会が2002年の８月19日から24日までニューヨークのコロンビア大学において開催されます。この大会への資料は大会実行委員のバートン教授 (Professor Judith Burton, InSEA 2002 World congress, Department of Arts & Humanities, Teachers College, Columbia University, 525 West 120 Street Box 78, NEW YORK NY 10027-6698 USA) (Fax: [1]212-678-3746, E-mail: jmb62@columbia.edu) に申請して下さい。

「国際研究交流部会」連絡先
筑波大学芸術学系　岡崎昭夫
E-mail:aokazaki@geijutsu.tsukuba.ac.jp

《その他の研究部会と連絡先》

■美術教育史研究部会
〒310-8512　水戸市文京2-1-1
茨城大学教育学部　金子一夫
TEL: 029-228-8256（金子研究室）
E-mail: kaneko@msv.ipc.ibaraki.ac.jp

■工作・工芸領域部会
〒943-8512　上越市上屋敷町１
上越教育大学芸術系教育講座（美術）
西村俊夫
TEL&Fax: 0255-21-3536（西村研究室）
E-mail: nishimurai@juen.ac.jp

■基礎データベース構築部会
〒514-8507　津市上浜町1515
三重大学教育学部　上山　浩
TEL: 0595-231-92806（上山研究室）
E-mail: ueyamai@edu.mie-u.ac.jp

■美術教育の課題と授業研究部会
〒371-8510　前橋市荒牧町4-2
群馬大学教育学部　新井哲夫
TEL&Fax: 027-220-7316（新井研究室）
E-mail: arai@edu.gunma-u.ac.jp

■メディア・リテラシー研究部会【新設予定】
〒448-8542　刈谷市井ヶ谷町広沢１
愛知教育大学第４部　ふじえみつる
TEL&Fax: 0566-26-2444（藤江研究室）
E-mail: mfujiei@auecc.aichi-edu.ac.jp

■アート・セラピー研究部会（仮称）【新設予定】
〒582-8558　藤井寺市春日丘3-8-1
大阪女子短期大学児童教育科　阿部寿文
TEL: 0729-55-07336
E-mail: qg8t-ab@asahi-net.or.jp

書評&文献紹介

宮脇理編『緑色の太陽』
国土社，2000.6.10

（執筆者：宮脇理、山木朝彦、直江俊雄、三浦浩喜、居上真人、木村典之、渡邊晃一、永守基樹、栗山裕至、伊藤文彦）

結城孝雄(兵庫教育大学連合大学院)

本書の根底に流れている危機感は、「学校システム」と「芸術表現」の共存が困難になってきた認識に由来する。冒頭で宮脇理は、規則によって特定の価値を強いる存在としての「学校システム」と絶対の自由を必要とする「芸術表現」が今日の学校制度の中で共存の限界にきているという。両者は近代と共に登場するが、特に学校教育の中で「システム」が「表現」を押さえ込む形で今日にいたっている。宮脇の言葉によれば「芸術とか造形美術の教育(一段と下位構造に置かれた教育グループ)は、息をつくことさえできない状態に置かれてきた」のである。今日の状況をこのように俯瞰した上で、一見対立する二つの存在を一元的に収斂させようとするのが本書の課題である。この課題は、今私達が直面する教育の諸問題を解決するための手がかりと重ね合わせることができるであろう。何故なら、学校不適応や学級崩壊、少年犯罪などの背後には、常に「学校システム」や「表現」のあり方が見え隠れするからである。

本書に登場する論者は美術教育が持つ様々な視点からこの課題に対してアプローチを試みる。一例として、山木朝彦は、美術教育批評の視点から近代日本の表現論の展開と美術教育がどのようにかかわってきたのかを述べ、高村の「緑色の太陽」は表現の普遍的原理であり、表現観の多様性を先取りした言説として高く評価する。これまで個が希求する表現は個性やオリジナリティーという形に表れ、西欧社会の憧れと民主社会の成熟度を計る指標として作用してきた。しかし、論者は今日の高度資本主義の中では、これさえも商品化している現実を憂い、これを打破するためには多様な視点を持つ他者理解が必要であると結んでいる。

それぞれの論者は比較教育、教育実践、現代美術、身体論、芸術教育思想、デジタルメディアという視点から「システム」と「表現」を一元化する試みを図ろうとする。同じ課題であってもその方向性は異なっている。比較教育の視点から直江俊雄は、無国籍の目で日本と英国の美術教育を比較し、これまでの文化遺産をいくつもの世界観のモデル群としてカリキュラムに構成し、子ども自らが引き出せるシステムを提案する。芸術教育思想の視点から永守基樹は、芸術と美術教育が幾つかのユートピアを示したが、「美術史の終焉」とともに「大きな物語＝進歩と発展」が終わったことを告げる。そして、「次なる物語」を予感させる「起源」として、ルソーに着目する。ルソーのロマン主義的「放浪」にあらゆる束縛からの「解放」と「自由」、新しさを追い求める近代芸術教育の本質を見出し、継承・再生するものであると指摘する。このように出口はそれぞれ異なっているが「システム」の中に再び「表現」を蘇らせようと互いに共振し合っているのである。最後に宮脇は、歴史を振り返る中で芸術が体制の中で都合よく利用され、切り捨てられてきたことを厳しく批判し、社会変革の有効な手段としての共感を得られなかったことを悔いる。このような現状を今後も抱えつつ、芸術やその表現が広く教育との関わりを持ち、社会が学校を取り囲む中でその新生を願うのである。

全ての論者の興味深い論考を紹介できないのは甚だ残念であり、この先はぜひとも御一読頂きたい。

研究ノート／実践報告

バウハウス展における再現授業の試み

岡本康明（宇都宮美術館）

「○月○日・クレーやカンディンスキーが教授として参加していたドイツのバウハウスは、建築をはじめ、いろいろなものに大きな影響を与えた。そんなシステムの絵本の学校が、いまも世界のどこかにあったら留学しよう、などと考える。」
(絵本画家の日記・長新太)より

「バウハウス」と聞いただけで、今も淡い希望や夢を抱いてしまうという人たちがたくさんいるに違いない。長新太氏だけではなく、今年の春に行なった「バウハウス展―ガラスのユートピア」に来館された建築科やデザイン科の学生さんをはじめ多くの人達にもそれを強く感じた。

90年代にはいって、ドイツのカールスルーエにあるZKM[カールスルーエ・アート・アンド・メディア・テクノロジー・センター]が、芸術とメディア・テクノロジーのためのセンターとしてバウハウスの現在化を強く意識して設立されたのに始まり、日本にも岐阜の国際情報科学芸術アカデミー[IAMAS]や大阪のインターメディウム研究所・IMI「大学院」講座[IMI GS]とデジタル・バウハウスを志向する教育機関の

例をいくつか見る事が出来る。長新太氏のように共同性に重点を置く運動体としての組織に思いを寄せるものから、現代の社会的教育的な課題を州や県を上げて、行政レベルで実際に行おうとするプロジェクトに至るまで、その水準や実効性はさておき、今日においても、学校＋工房という機能を併せ持つバウハウスはその理想的教育機関の一つのモデルとなっており、その理念とバウハウスに込めるユートピア幻想は今も健在と言える。

今回の「バウハウス展」は、当初1919年から1923年の初期バウハウスに主眼がおかれていたため、展示会場にグロピウスの校長室を再現(4館巡回で、美術館ごとに展示条件が異なる為、充分なものとはならなかったが)し、イスに座り暫しグロピウスの気分に浸るという展示も試みられた。またその関連の教育普及事業としてもワイマールで実際に行われていた授業を再現し、一般の方々にも実習の体験をしてもらえるものにしたいと考えていた。大学での基礎造形実習にカンディンスキーやクレー、モホリ＝ナギやアルバースの課題が出され、実際に作品を作った経験のある美大や芸大出身の方も多いと思うが、この再現授業では課題とともに、当時の授業の空気も少し感じ取れるものにならないかという事で、やや演劇的な要素を加味するものとなった。初期バウハウスの予備課程を担うイッテンとカンディンスキーに焦点をあてて行った再現授業「イッテンのデッサン」「カンディンスキーの分析的デッサン」には、それぞれ100人以上の参加者があり関心の高い事を知らされた。再現授業に関する詳しい内容は、来年3月に発行を予定している「バウハウス展関連事業記録集」に掲載予定。また筑

波の学会でこの再現授業を取り上げていただく事になっているので、興味のある方には見てもらえると思う。来観者を増やすための美術館の普及事業が、結局は一対一の関係で、手間と時間をかけないと成り立たないように、このバウハウスでの授業というのも、当時の教育内容のみならず、教師と学生の関係、芸術とその秘儀性を改めて考えさせられた。続きは本番で…

情報発信コーナー

○シンポジウム「21 世紀、これからの美術･美術教育」（神戸大学発達科学部東山明氏退官記念イベント）のお知らせ

・**日時**　2001 年 2 月 10 日（土）13：30～17：15（17：30～19：00 懇親会…東山明先生の退官記念懇親会も兼ねさせていただきます。

・**ところ**　神戸大学発達科学部大会議室
神戸市灘区鶴甲 3-11
阪急六甲駅･JR六甲道駅･阪神御影駅より、市バス36系統鶴甲団地行き、神大発達科学部前下車

・**主催**　神戸大学発達科学部、神戸大学旧教育学部美術科 OB 有志

・**後援**　美術科教育学会

・**趣旨**

21 世紀を迎える現代社会は、IT（情報技術）革命を軸にして、過激と過剰、閉塞と豊かさゆえの歪みなど、あらゆる分野において、価値観の変容や意識の変革、あるいは組織改革が迫られてきます。そして、またそれが子どもをとりまく生活・文化・教育にも大きな影響を与え、人間形成の様々な問題や課題が生じてきています。

このシンポジウムでは、これからの社会や生活の中で、美術あるいは芸術の役割は何か、またどう位置づけるのか。そして、子どもの人間形成上の美術教育の役割位置づけ、方向性について討論を深めていきたいと考えています。

・**内容**

基調講演　中嶋隆氏（現代美術作家・大阪府立福井高校教諭）、山田脩二氏（淡路･瓦師）、河崎晃一氏（芦屋市立美術博物館）、辻田嘉邦氏（兵庫教育大学）

シンポジウム　上記４氏をパネラー、東山明氏、鈴木幹雄氏（神戸大）をコーディネーターとして行います。

まとめと講演　東山明氏

・**会費**　シンポジウム　無料
懇親会　有料（2500 円）

・**申し込み，問い合わせ**

懇親会の参加の意志の有無、住所、氏名、電話番号を記入の上、以下まで郵送または FAX でお送り下さい。

〒 657-8501 神戸市灘区鶴甲 3-11
神戸大学発達科学部　鈴木幹雄研究室
FAX078-803-7720（鈴木研究室）

・シンポジウム申し込みは当日でも可能ですが、人数把握のためできるだけ事前に連絡をお願いします。お誘い合わせの上、多数ご参加下さい。

○第 18 期日本学術会議の教科教育学研究連絡委員会

表記の委員として長谷川哲哉理事が任命されました。オブザーバーでなく正規の委員を送りだすことができたのは、15期以来４期目にして我が学会からは初めてのことです。

○科研採択課題に関連して

２頁に掲載の＜基盤研究(C)＞降旗孝氏の研究は、平成14年度までの3年間の研究です。テーマに興味・関心をもたれた小学校、中学校の現場の先生方の連絡を希望されています。

【連絡先】
山形大学教育学部美術講座　降旗孝
E-mail: em393@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp
TEL&FAX: 023-628-4347

○学会通信 38 号の訂正

上中良子氏記事 11 頁、右段 20 行目
誤（1999･12･　）→正（1999･11･12）

○学会通信 No.40 への投稿原稿・掲載記事の募集

通信 No.40 の発行は、3 月中旬の予定です。投稿原稿、掲載記事等は、2 月 26（月）までに、宇田（事務局通信担当 /udah@nara-edu.ac.jp）又は新井（通信担当理事 /arai@edu.gunma-u. ac.jp）まで電子メール、郵便等でお送りください。